

令和 7 年度第 2 回小牧市交通安全・防犯対策協議会 議事録

日 時	令和 7 年 9 月 26 日（金）午前 10 時～午前 11 時 10 分
場 所	小牧市役所 本庁舎 6 階 601 会議室
出 席 者	【委員】 ◎中村 明 交通安全協会小牧支部 ○林 泰治 安全なまちづくり推進指導員 加藤 一樹 小牧安全運転管理協議会 永井 信保 小牧市交通委員連絡協議会 春井 ひとみ 小牧防犯協会連合会 加藤 隆明 小牧少年補導委員会 伊藤 守 小牧市保護区保護司会 田上 昭典 小牧市生徒指導連絡協議会 稲垣 貴宣 小牧市区長会連合会 梶田 久美子 小牧市女性の会 落合 光江 小牧市更生保護女性会 長谷川 宜史 小牧商工会議所 長橋 克将 小牧小中学校 P T A 連絡協議会 服部 勲 小牧市老人クラブ連合会 梅田 三枝子 公募委員 熊澤 正幸 公募委員 牧野 裕人 公募委員 ※ ◎会長、○副会長 【事務局】 落合 健一 市民生活部長 小川 真治 市民生活部次長 堀田 正二 市民安全課長 坂田 充 市民安全課主幹 五十君 有美子 市民安全課交通防犯係係長 安達 賢一 市民安全課交通防犯係主任 尾関 愛 市民安全課交通防犯係主任 【小牧警察署】 上久保 充 交通課総務係巡查部長
欠 席 者	辻 里美 子どもと高齢者を交通事故から守る会 長谷川 幸彦 小牧工場事業場防犯協会 澤木 厚司 小牧市社会福祉協議会
傍 聴 者	0 名
配布資料	・ 次第 ・ 資料：協議事項

主な内容

1 協議事項

防犯対策課題提案型実証事業の経過報告について

- ・各委員に、特殊詐欺対策及び子供の連れ去りに関するVRを体験してもらった後に、事務局より経過等を報告。

(坂田主幹)

- ・市内の福祉センターなどの高齢者施設、出前講座、こども未来館でVR体験を行った。
- ・集計したアンケートによると高齢の方も、子供たちも楽しかったというような意見、すごく勉強になったという前向きな意見があった。一方、体験時にサポートする職員が一定数必要であり、前回の対策協議会でのご意見にもあったように、待ち時間がある程度発生した。

(五十君係長)

- ・VRに関する来年度の予算見積額等について、説明。
- ・今回と同程度の作品を制作する場合、動きの多い映像作品とする場合、スマートフォン等で情報を視覚的に得る（AR）場合を想定。
- ・現在の映像を使用し、VRゴーグルを借りる場合の費用、イベント等での啓発時に体験者をフォローする支援員に関する費用についても見積り額を説明した。
- ・今年度は、全庁的に行っている「実証実験」の一つとして行ったため費用が抑えられているが、実際に契約してVRを活用していくためには多くの費用が必要である。

(中村会長)

VRの映像で、もっと分かりやすいキーワードを使った方がいいと思う。

(熊澤委員)

- ・今回の映像では、VRの特性をまだ生かしきれていないのではないかな。
- ・多くの人に普及していくためには、何回も色々な場で活用してもらえればと思う。
- ・映像をインターネット上やスマホで見られるようにしたり、地域で活用してもらえるように結ネットで映像を配布したりするのもよいと思う。

(林副会長)

- ・VRの普及のためには費用の問題の前に、体験してもらう人の目標数や映像の中身などをどうすればよいか考える必要がある。
- ・少額でできる範囲で映像を作成して、子供向けにはVRをプラネタリウムや児童館に設置し、高齢者向けには地域のサロンや民生委員の高齢者の家庭訪問時に活用していただくなど、普及の方法は色々考えられる。
- ・費用をかける前に、今あるものを見て、知ってもらう機会を作っていくことに関して委員の皆様からご意見をいただけたらと思う。

(田上委員)

VRはよい取り組みだと思う。費用や対象の年齢層を絞る必要はあるが、来年度も継続していただきたい。

(中村会長)

せっかく作ったものなので、VRは活用できればと思う。

2 報告

(1) 小牧市における交通事故及び犯罪発生状況について

(小牧警察署交通課長：代理 上久保巡查部長)

・市内の交通事故発生件数は、443 件（令和 7 年 9 月 25 日現在。昨年比プラス 4 件）
負傷者数は 520 名（昨年度比プラス 13 名）で、このうち重傷者が 21 名（昨年度比プラス 10 名）。重傷者が増えている傾向にあり、内訳としては高齢者が多いというのが現状。

- ・自転車乗車用ヘルメットの着用率が伸び悩んでいる。
- ・愛知県は死亡事故者数としては全国ワースト 6 位。1 位は東京、2 位神奈川、3 位北海道、4 位大阪、千葉、6 位埼玉・愛知となっている。
- ・愛知県は現在、死亡事故者数は 75 名（昨年比マイナス 22 名）
- ・現在、秋の全国交通安全運動期間中であり、松永製菓と共催でタレントの須田あかりさんをお招きしてキャンペーンを実施したり、小牧コロナの大型ビジョンに啓発の動画を投稿したり、また巡回バス「こまくる」の車内でヘルメットの啓発動画を掲載させていただいている。

(小牧警察署生活安全課長：代理 坂田主幹)

- ・市内の刑法犯認知件数は 865 件。
- ・自転車盗が 254 件で、全体の約 30%である。自転車盗の多くは商業施設、アパート・マンションの駐輪場で発生しており、全体の 75%が無施錠で盗まれている。
- ・市内では自販機ねらいも多く発生している。8 月末時点で 32 件（昨年の同時期は 2 件。増加率 1,500%）発生しており、会社の敷地内で多く発生している。
- ・一昔前は、自販機の扉をボール等でこじ開ける手段が多かったが、最近はわずかな穴を開けたりして鍵を外して現金を盗んでいく手段が多い。以前のような明らかに壊されている状態であれば外観上目立つが、自販機を設置している企業からの通報となると、被害からかなり時間が開いていることが多く、犯人特定のために防犯カメラを確認する期間が絞り切れなかったりする。そのため、電源が落ちている、何か異常な状態だと気付いた時に速やかに警察に連絡していただければと思う。
- ・県警本部が行っているアイチポリスという防犯アプリを経由して、「詐欺バスター」という詐欺対策のサービスをダウンロードすることができる。通常だと 30 日間無料だが、今ならアイチポリスを経由すると 90 日間無料となるので、ぜひご検討いただきたい。

(2) 「交通安全」「防犯」ポスター・標語の選定について【事務局より説明】

- ・ポスター653点、標語503点の応募があった。
- ・委員の採点により、「特別賞」各5点、「入選」各10点を決定する

(3) テレマティクス技術を用いた交通安全対策について【事務局より説明】

(坂田主幹)

- ・市と連携協定を結んでいる「あいおいニッセイ同和損保」の協力のもと、令和7年8月1日からの1か月間、応募者の車に専用のタグを取り付けていただき、運転や道路のデータの収集を行った。
- ・専用のアプリを取得し、自分の運転に関する点数確認ができるなど、自分の運転を改めて見つめ直すきっかけとなったという声をいただいた。
- ・今回のデータ収集に基づく結果報告は、10月下旬頃となる予定である。

(中村会長)

今回のデータ収集によって、交通安全上の危険箇所等を地図で確認することができるのか。

(坂田主幹)

交通量の多い場所や、スピードが出やすい場所などを視覚的に分かりやすいように地図を作ってもらう予定である。

3 その他

・愛知県警察公式アプリ内からインストールできる特殊詐欺対策について、動画を用いて改めて説明

(坂田主幹)

- ・詐欺の疑いがある電話がかかってくると、「詐欺の疑いあり」といった表示が携帯電話上に出てくる。メールに関しても、同様の表示がされる。
- ・今90日間無料だが、自動更新ではなく、継続するかの確認がある。
- ・継続する場合は、月額413円。まず、どのような機能があるのか試してみたい。

(中村会長)

詐欺の電話がかかってきた時は有効な手段だと思う。

【全体を通しての質疑・意見】

(伊藤委員)

新しい技術で広報をすることは良いことだが、高齢者には携帯を持っていない方もいる。そのため、紙ベースでの発信も継続してもらえればと思う。

以上